

### 3. 断熱性能と気密性能に関わる問題

もっとも多いのが、天井裏の断熱材の施工不良です。隙間だらけの敷き込み方や間仕切り壁と天井の取り合い部の施工不良により、断熱性能が半減しています。気密についても施工不良が多く、サッシまわりや電気設備のプレート回りで風が入ってきます。猫も杓子も「高断熱・高气密」ですが、その信憑性ははたしてどの程度でしょうか。

### 4. 構造部の換気と通気の問題

床下に高性能な断熱材を施工している住宅でも、冬は床下換気口を閉めるように説明している工業者がたくさんいます。閉めることで床下に湿気が充満し、カビや腐朽菌が発生しています。また、外壁の通気層が通気胴縁の施工不良で閉じていたり、通気層の上端が閉鎖しており、壁内通気が行われず壁内に結露が発生している場合があります。さらに、小屋裏換気が適切に行われず、夏の小屋裏がサウナ状態になっている例もあります。木造住宅にとって生命線ともいえる構造内部の換気や通気が、いまだに徹底されていない現実があります。

\*

繰り返しますが、結露は比較的新しい住宅に多く起きています。しかも、知名度の高いハウスメーカーや実績のある工務店の物件にも起きています。

\*

特殊な例ですが、独自の工法を打ち出したものの、トラブルを引き起こしている事例を紹介します。

知名度の高いハウスメーカーの標準仕様です。火気使用室（台所）に義務付けられている給気レジスターの設置場所の問題です。数件ほど、そのことで相談を受けました。給気レジスターは、台所のレンジフードファンの近くの壁に設置する場合がありますが、そのメーカーでは流し台の下に設け、床下から給気しているのです。これは法令違反ではないのですが、結果として床下の空気が室内に入ってきます。その床下の空気がきれいであるか、汚れているか問題になります。

相談された方は、カビ臭やセメント臭のような、不快な臭いが入ってくると言います。床下の空気が、はたして新鮮な空気といえるかどうかはとても疑問です。

\*

冬期間は台所の給気レジスターを設置すると冷気が入り込むので、最初から給気レジスターを設置しないという工業者もいます。調理中に、臭いや煙が抜けないという相談の多くが給気レジスターの未設置によるものです。検査済証が交付されている物件でも、給気レジスターが設置されていないというのはどういうことでしょうか。

\*

いつの間にか、住宅は精密機械のようになってしまいました。特に換気などの空気設備の不具合は、健康への悪影響は想像以上です。

ますます高度で精密化する住宅を前に、住宅全体を総合的に調査・診断できる第三者の専門家が求められているように思います。したがって、その存在と役割について、効果的な告知活動を行うとともに、公的機関との連携などを積極的に推進する必要があるように思います。